

科目名	論理学					
科目名(英)	logic					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	野見山待子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて非常勤講師(哲学)として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年					
授業概要	物事を論理的に思考し、客観的に評価できるような物の見方・考え方を学び、根拠に基づいた思考力と分析力、また論理的に表現し伝える力を身につける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				1. 思考の形式および法則を理解した上で論理的思考について説明できる。
	○	○				2. 他者の意見を客観的に評価し、批判的思考について説明できる。
	○	○				3. 自己の考えや思考を他者に伝える為の文章表現について説明できる。
テキスト・教材 参考図書	テキストなし 講師配布資料					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	＜時間1・2＞論理的であるとは			配布資料の事前通読	
	2	＜時間3・4＞論理的推論(演繹)と推測の違い			配布資料の事前通読	
	3	＜時間5・6＞論証評価－適切な批判			配布資料の事前通読	
	4	＜時間7・8＞論証評価－練習問題			配布資料の事前通読	
	5	＜時間9・10＞立論・異論・反論			配布資料の事前通読	
	6	＜時間11・12＞反論・批判			配布資料の事前通読	
	7	＜時間13・14＞否定について			配布資料の事前通読	
	8	＜時間15・16＞両立可能なもの・不可能なもの			配布資料の事前通読	
	9	＜時間17・18＞論証図とは			配布資料の事前通読	
	10	＜時間19・20＞論証図の書き方			配布資料の事前通読	
	11	＜時間21・22＞正しい演繹とは			配布資料の事前通読	
	12	＜時間23・24＞正しい演繹－練習問題			配布資料の事前通読	
	13	＜時間25・26＞間違った演繹と隠れた前提			配布資料の事前通読	
	14	＜時間27・28＞論証を批判的に捉える			配布資料の事前通読	
	15	＜時間29・30＞論証を批判的に捉える－練習問題			配布資料の事前通読	
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験	◎	◎			評価割合
						100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	カウンセリング						
科目名(英)	Counseling						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	大黒剛		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	施設で心理士として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	後に続く看護カウンセリングの基礎として、人間を個性あるものとして捉え、真に全体的人間として把握することの必要性、さらに接近の仕方などを学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 看護におけるカウンセリングマインドの必要性について説明できる	
	○	○				2. 看護現場におけるカウンセリング的なかかわりの活用について考え、説明できる	
	○	○				3. 以下の項目について説明できる。 1) 無意識 2) 自我の構造 3) 防衛機制 4) 精神力動的診断 5) 非指示的アプローチ 6) クライアント中心療法 7) エンカウンター・グループ 8) 三条件	
	○	○				4. 自分や周囲の人々の理解にカウンセリング理論を活用して、文章化できる	
テキスト・教材 参考図書	山村 豊:『系統看護学講座 基礎分野 心理学』, 医学書院, 2017 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間1・2>カウンセリングマインド				配布資料の事前通読	
	2	<時間3・4>カウンセリングと看護				配布資料の事前通読	
	3	<時間5・6>カウンセリングの理論 フロイトとロジャーズ				配布資料の事前通読	
	4	<時間7・8>無意識				配布資料の事前通読	
	5	<時間9・10>自我の構造				配布資料の事前通読	
	6	<時間11・12>防衛機制				配布資料の事前通読	
	7	<時間13・14>精神力動的診断				配布資料の事前通読	
	8	<時間15・16>非指示的アプローチ				配布資料の事前通読	
	9	<時間17・18>クライアント中心療法				配布資料の事前通読	
	10	<時間19・20>エンカウンター・グループ				配布資料の事前通読	
	11	<時間21・22>三条件				配布資料の事前通読	
	12	<時間23・24>様々な場面でのカウンセリング演習ー感情の演習				配布資料の事前通読	
	13	<時間25・26>様々な場面でのカウンセリング演習ーあいつち、話の要約、感情着目の練習				配布資料の事前通読	
	14	<時間27・28>様々な場面でのカウンセリング演習ー患者の気持ちに寄り添う練習				配布資料の事前通読	
15	<時間29・30>様々な場面でのカウンセリング演習ーリーダーシップモデル演習				配布資料の事前通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	解剖生理学Ⅲ(脳神経)						
科目名(英)	Anatmy PhysiologyⅢ Brain and Neuron						
単位数	1単位	時間数	8時間/30時間	担当者	名取良弘		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	人体の機能と構造を系統的に理解することで、科学的根拠に基づいた観察や判断ができる能力を身につける。本科目では、脳神経について学び、身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 脳神経の組織について説明できる。	
	○	○				2. 脳神経の働きについて説明できる。	
	○	○				3. 脳神経のの構造と機能を部位に応じて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	林正 健二:『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(1):解剖生理学』, メディカ出版, 2016 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1,2> 脳神経系の構造と機能			配布資料の事前通読 解剖生理学 総論通読		
	2	<時間:3,4> 人間の生活行動や意思のすべてを司る中枢の意味について			配布資料の事前通読 解剖生理学 総論通読		
	3	<時間:5,6> 脳神経系が人間の生活に果たす役割と影響			配布資料の事前通読 解剖生理学 総論通読		
	4	<時間:7,8> まとめ 振り返り			配布資料の事前通読 解剖生理学 総論通読		
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(名取)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 解剖生理学Ⅲ 1単位取得には、(解剖生理学Ⅲ骨筋100%+神経100%+腎100+生殖器100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学 I (消化器)						
科目名(英)	Pathophysiology I Digestive system						
単位数	1単位	時間数	20時間/30時間	担当者	①井村洋 ②梶原優子 ③石飛一枝 ④角美緒		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて①医師・②③④看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	消化器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。消化器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 消化器の構造と機能を想起することができる。	
	○	○				2. 消化器系の症状とメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				3. 消化器系の診察方法について述べるができる。	
	○	○				4. 消化器系の疾患(原因、症状、治療)について述べるができる。	
	○	○				5. 消化器系の検査とその留意点について述べるができる。	
	○	○				6. 肝機能障害について述べるができる。	
	○	○				7. 肝疾患の検査、治療について述べるができる。	
	○	○				8. 肝細胞がん、肝硬変、肝炎の種類や症状、原因、治療について延べるができる。	
	○	○				9. 上部消化管の外科的治療、合併症について説明できる。	
	○	○				10. 下部消化管の外科的治療、合併症について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	南川 雅子:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器』, 医学書院, 2019 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間1・2> 食道の構造と機能 小腸・大腸の構造と機能について			配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読		
	2	<時間3・4> 消化器系の症状(吐血・下血・下痢・便秘・腹部膨満・食欲不振・体重減少)について			配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読		
	3	<時間5・6> 消化器系の視診、聴診、打診、触診、直腸指診について			配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読		
	4	<時間7・8> 消化器系の検査について			配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読		
	5	<時間9・10> 食道・胃・十二指腸疾患について			配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読		
	6	<時間11・12> 大腸癌、ヘルニア、虫垂炎について			配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読		
	7	<時間13・14> 肝臓・胆道・胆嚢・膵臓の構造について			配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読		
	8	<時間15・16> 肝臓・胆道・胆嚢・膵臓の疾患について			配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読		
	9	<時間17・18> 上部消化管の外科的治療について			配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読		
	10	<時間19・20> 下部消化管の外科的治療について			配布資料の事前通読 解剖生理学 消化器系通読		
評価方法	・4名の講師による講義内容を 筆記試験 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		筆記試験(井村)	◎	◎			60%
		筆記試験(角)	◎	◎			20%
		筆記試験(梶原・石飛)	◎	◎			20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学 I 1単位取得には、(病態生理学 I 内分泌100%+消化器100%)/2=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学 I (内分泌)					
科目名(英)	Pathophysiology I Endocrine system					
単位数	1単位	時間数	10時間/30時間	担当者	坂井二郎	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて医師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年					
授業概要	内分泌器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。内分泌器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				1. 内分泌疾患の種類とメカニズムについて述べるができる。
	○	○				2. 甲状腺疾患の症状と治療について述べるができる。
	○	○				3. 副腎疾患の症状と治療について述べるができる。
	○	○				4. 糖尿病の原因と種類、症状と治療について述べるができる。
	○	○				5. 高脂血症について述べるができる。
テキスト・教材 参考図書	黒江 ゆり子:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝』, 医学書院, 2019 講師配布資料					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	バセドウ病について			配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	2	橋本病について			配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	3	尿崩症について			配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	4	SDADHについて			配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	5	亜急性甲状腺炎について			配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	6	原発性アルドステロン症について			配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	7	アジソン病について			配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	8	糖尿病について			配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	9	高脂血症について			配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
	10	まとめ			配布資料の事前通読 解剖生理学 内分泌器系通読	
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験	◎	◎			
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学 I 1単位取得には、(病態生理学 I 内分泌100%+消化器100%)/2=60%以上が必要。					

科目名	病態生理学Ⅱ(血液・造血器)								
科目名(英)	Pathophysiology II. Blood and hematopoietic organs								
単位数	2単位	時間数	10時間/45時間	担当者	油布祐二 松島孝充				
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	2名とも病院にて医師として勤務				
対象学科・学年	看護科・1年								
授業概要	血液・造血器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。血液・造血器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				1. 血液の生理と造血のしくみについて述べるができる。			
	○	○				2. 造血器系の症状(貧血、白血球増加症・減少症、脾腫、リンパ節腫脹、出血性素因)について述べるができる。			
	○	○				3. 検査、輸血について述べるができる。			
	○	○				4. 造血器腫瘍治療の基本理念について述べるができる。			
	○	○				5. 造血器系の疾患(貧血;鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・巨赤芽球性貧血・溶血性貧血、白血病;慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、骨髄増殖性疾患、白血病の異常、伝染性単核球症、悪性リンパ腫、HIV感染とエイズ、異常タンパク血症、出血性疾患)の特徴と症状、治療について述べるができる。			
テキスト・教材 参考図書	飯野 京子:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器』, 医学書院, 2019 講師配布資料								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	血液の生理と造血のしくみ 検査、輸血について				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読			
	2	造血器系の症状(貧血、白血球増加症・減少症、脾腫、リンパ節腫脹、出血性素因)				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読			
	3	造血器腫瘍治療の基本理念				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読			
	4	貧血;鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読			
	5	貧血;巨赤芽球性貧血・溶血性貧血				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読			
	6	白血病;慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、骨髄増殖性疾患				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読			
	7	白血病の異常				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読			
	8	伝染性単核球症、悪性リンパ腫				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読			
	9	HIV感染とエイズ、異常タンパク血症				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読			
	10	出血性疾患				配布資料の事前通読 解剖生理学 血液・循環通読			
評価方法	・1名の講師による講義内容を 筆記試験 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	筆記試験	◎	◎				100%		
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅱ 2単位取得には、(病態生理学Ⅱ 循環器100%+造血器100%+呼吸器100%)/3=60%以上が必要。								

科目名	病態生理学Ⅱ(呼吸器)						
科目名(英)	Pathophysiology II. Blood and hematopoietic organs						
単位数	2単位	時間数	15時間/45時間	担当者	坂井二郎 大崎敏弘		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	2名とも病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	呼吸器系、がもたらず身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。呼吸器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 慢性閉塞性肺疾患の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				2. 気管支喘息の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				3. インフルエンザの病態と治療について述べるができる。	
	○	○				4. 肺結核の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				5. 間質性肺炎の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				6. 睡眠時無呼吸症候群の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				7. 過換気症候群の病態と治療について述べるができる。	
	○	○				8. 肺がんと肺がんの治療について述べるができる。	
	○	○				9. 呼吸器系の手術療法について述べるができる。	
	○	○				10. 呼吸器系の術後の合併症について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	浅野 浩一郎『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器』, 医学書院, 2019 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間:1・2>慢性閉塞性肺疾患について				配布資料の事前通読 解剖生理学 呼吸器系通読	
	2	<時間:3・4>気管支喘息について				配布資料の事前通読 解剖生理学 呼吸器系通読	
	3	<時間:5・6>気管支喘息				配布資料の事前通読 解剖生理学 呼吸器系通読	
	4	<時間:7~9>インフルエンザ 肺結核 間質性肺炎				配布資料の事前通読 解剖生理学 呼吸器系通読	
	5	<時間:10・11>睡眠時無呼吸症候群 過換気症候群				配布資料の事前通読 解剖生理学 呼吸器系通読	
	6	<時間:12・13>肺がんについて				配布資料の事前通読 解剖生理学 呼吸器系通読	
	7	<時間:14・15>呼吸器系の手術療法 肺ドレナージについて				配布資料の事前通読 解剖生理学 呼吸器系通読	
評価方法	・2名の講師による講義内容を 筆記試験 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(坂井)	◎	◎				80%
	筆記試験(大崎)	◎	◎				20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅱ2単位取得には、(病態生理学Ⅱ循環器100%+造血器100%+呼吸器100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅱ(循環器)								
科目名(英)	Pathophysiology II Cardiovascular								
単位数	2単位	時間数	20時間/45時間	担当者	井上修二郎 今村義浩 内田孝之				
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	3名とも病院にて医師として勤務				
対象学科・学年	看護科・1年								
授業概要	循環器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。循環器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				1. 動悸・チアノーゼについて説明することができる。			
	○	○				2. 循環器系の検査について(心電図、エコー、X線、心筋シンチグラフィ、磁器共鳴画像法、PCI、ペースメーカー)述べるができる。			
	○	○				3. 循環器系の疾患(メタボリックシンドローム、血圧異常、弁膜症、先天性心疾患、心筋疾患、リンパ性疾患、動脈系疾患、先天性疾患)について述べるができる。			
	○	○				4. 狭心症(労作性狭心症・安静狭心症)の種類・原因・治療について述べるができる。			
	○	○				5. 急性冠症候群と心筋梗塞;分類・症状・検査について述べるができる。			
	○	○				6. 心不全の種類とメカニズム、治療について述べるができる。			
	○	○				7. 不整脈と心電図(心房性・心室性期外収縮)の特徴について述べるができる。			
	○	○				8. 冠動脈バイパス手術の方法と術後の合併症について述べるができる。			
	○	○				9. 大動脈瘤の外科治療の特徴について述べるができる。			
テキスト・教材 参考図書	松田 直樹:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器』, 医学書院, 2019 講師配布資料								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	<時間:1・2> 動悸・チアノーゼについて				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読			
	2	<時間:3・4> 循環器系の検査について(心電図、エコー、X線、心筋シンチグラフィ、磁器共鳴画像法、PCI、ペースメーカー)				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読			
	3	<時間:5・6> 循環器系の疾患:メタボリックシンドローム、狭心症;労作性狭心症・安静狭心症				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読			
	4	<時間:7・8> 急性冠症候群				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読			
	5	<時間:9・10> 心筋梗塞;分類・症状・検査				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読			
	6	<時間:11・12> 心不全、血圧異常、弁膜症、先天性心疾患				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読			
	7	<時間:13・14> 心筋疾患、リンパ性疾患、動脈系疾患、先天性疾患				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読			
	8	<時間:15・16> 不整脈と心電図(心房性・心室性期外収縮)				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読			
	9	<時間:17・18> 冠動脈バイパス手術の方法と術後の合併症について				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読			
	10	<時間:19・20> 大動脈瘤の外科治療の特徴について				配布資料の事前通読 解剖生理学循環器 通読			
評価方法	・3名の講師による講義内容を 筆記試験 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	筆記試験(井上 今村)	◎	◎				80%		
	筆記試験(内田)	◎	◎				20%		
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅱ 2単位取得には、(病態生理学Ⅱ 循環器100%+造血器100%+呼吸器100%)/3=60%以上が必要。								

科目名	病態生理学Ⅲ(脳神経系)						
科目名(英)	Pathophysiology III. Nervous System						
単位数	2単位	時間数	24時間/45時間	担当者	名取良弘 高瀬敬一郎		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	2名とも病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	脳神経系、がもたらず身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。脳神経系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 末梢神経損傷について述べるができる。	
	○	○				2. 運動機能・意識障害について述べるができる。	
	○	○				3. 脳神経系の様々な障害について述べるができる。	
	○	○				4. 脳神経系の検査(神経学的検査・髄液検査・脳血管撮影・CT・3DCT・MRIなど)について述べるができる。	
	○	○				5. 脳神経系の疾患について症状と治療を述べるができる。	
	○	○				6. 脊髄疾患について述べるができる。	
	○	○				7. 脳神経外科系における検査・診断・治療について述べるができる。	
	○	○				8. 開頭術とその術後管理について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	井手 隆文:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経』, 医学書院, 2019 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間:1・2>末梢神経損傷				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	2	<時間:3・4>意識障害、運動機能障害について				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	3	<時間:5・6>脳神経系の様々な障害				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	4	<時間:7・8>検査(神経学的検査・髄液検査・脳血管撮影・CT・3DCT・MRIなど)				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	5	<時間:9・10>クモ膜下出血・脳内出血・脳梗塞・一過性脳虚血発作				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	6	<時間:11・12>神経痛、単神経障害、末梢性顔面神経麻痺、神経と筋疾患				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	7	<時間:13・14>中毒、パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	8	<時間:15・16>脳炎、脳腫瘍、髄膜炎、神経梅毒、破傷風、クロイツフェルトヤコブ病、てんかん、認知症				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	9	<時間:17・18>脱髄疾患(多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎)				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	10	<時間:19・20>脊髄疾患(脊髄血管障害、脊髄動脈奇形、脊髄炎、急性・慢性脊髄疾患)				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	11	<時間:21・22>脳神経外科系における検査・診断・治療				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
	12	<時間:23・24>開頭術とその術後管理				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読	
評価方法	・2名の筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(名取)	◎	◎				80%
	筆記試験(高瀬)	◎	◎				20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅲ2単位取得には、(病態生理学Ⅱ運動器100%+脳神経内科80%+脳神経外科20%)/2=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅲ(骨筋系)									
科目名(英)	Pathophysiology III. Bone muscle system,									
単位数	2単位	時間数	20時間/45時間	担当者	牛島貴宏					
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて医師として勤務					
対象学科・学年	看護科・1年									
授業概要	骨筋系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。骨筋系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ									
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				1. 運動の機能と構造について述べるができる。				
	○	○				2. 骨の病態や治療法について述べるができる。				
	○	○				3. 骨折の治療、種類について述べるができる。				
	○	○				4. 脊椎骨折・脊髄損傷、骨折、脱臼、打撲について述べるができる。				
	○	○				5. 骨粗鬆症について(原因・症状・治療)述べるができる。				
	○	○				6. 痛風、偽痛風(原因・症状・治療)について述べるができる。				
	○	○				7. くる病、骨軟化症、上皮小体機能亢進症について述べるができる。				
	○	○				8. 骨腫瘍(良性・悪性骨腫瘍)の症状・治療について述べるができる。				
テキスト・教材 参考図書	田中 栄『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器』, 医学書院, 2019 講師配布資料									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	<時間:1・2>運動の機能と構造				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読				
	2	<時間:3・4>骨の病態や治療法				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読				
	3	<時間:5・6>骨折の治療、種類				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読				
	4	<時間:7・8>脊椎骨折・脊髄損傷				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読				
	5	<時間:9・10>さまざまな骨折				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読				
	6	<時間:11・12>脱臼、打撲				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読				
	7	<時間:13・14>骨粗鬆症				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読				
	8	<時間:15・16>痛風、偽痛風				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読				
	9	<時間:17・18>くる病、骨軟化症、上皮小体機能亢進症				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読				
	10	<時間:19・20>骨腫瘍(良性・悪性骨腫瘍)				配布資料の事前通読 解剖生理学運動器 通読				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験評価を行う。 筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。 									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	筆記試験(牛島)	◎	◎				100%			
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅲ2単位取得には、(病態生理学Ⅱ運動器100%+(脳神経内科80%+脳神経外科20%)/2=60%以上が必要。									

科目名	病態生理学Ⅳ(女性生殖器)						
科目名(英)	Pathophysiology IV. Female genital organ						
単位数	1単位	時間数	12時間/30時間	担当者	①松岡咲子 ②谷口貴之 ③渡邊さや ④船石創子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて①②③医師・④看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	女性生殖器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。女性生殖器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 女性生殖器の構造と機能について想起することができる。	
	○	○				2. 妊娠の成立と診断について述べるができる。	
	○	○				3. 女性生殖器の症状(ショック、出血)述べるができる。	
	○	○				4. 女性生殖器系の診察と検査について述べるができる。	
	○	○				5. 女性生殖器系の疾患について述べるができる。	
	○	○				6. 不妊の治療、人工授精、性感染症と治療について述べるができる。	
	○	○				7. 女性生殖器系の疾患の手術療法(子宮癌)について述べるができる。	
	○	○				8. 乳癌の手術療法について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	末岡 浩:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』, 医学書院, 2019 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1・2>女性生殖器の構造と機能、妊娠の成立と診断について			配布資料の事前通読 解剖生理学女性生殖器 通読		
	2	<時間:3・4>女性生殖器系の症状(ショック、出血)、診察と検査			配布資料の事前通読 解剖生理学女性生殖器 通読		
	3	<時間:5・6>膣の疾患、子宮の疾患、卵管の疾患、卵巣の疾患			配布資料の事前通読 解剖生理学女性生殖器 通読		
	4	<時間:7・8>骨盤内炎症性疾患、乳腺の疾患、乳がん			配布資料の事前通読 解剖生理学女性生殖器 通読		
	5	<時間:9・10>不妊の治療、人工授精、性感染症と治療			配布資料の事前通読 解剖生理学女性生殖器 通読		
	6	<時間:11・12>女性生殖器系の疾患の手術療法(子宮癌)、乳癌の手術療法			配布資料の事前通読 解剖生理学女性生殖器 通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅳ1単位取得には、(病態生理学Ⅳ泌尿器100%+女性生殖器100%+感染症100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅳ(腎・泌尿器)						
科目名(英)	Pathophysiology IV. Renal and urinary organs						
単位数	1単位	時間数	10時間/30時間	担当者	中島雄一 藤崎毅一郎 宮嶋哲匡		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	腎・泌尿器系、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。腎・泌尿器系に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○			1. 腎不全の症状・治療について述べるができる。		
	○	○			2. 腎移植・末梢腎不全治療について述べるができる。		
	○	○			3. 泌尿器系の構造と機能(腎臓・尿管・膀胱・尿道・男性生殖器)について想起することができる。		
	○	○			4. 尿の異常と排尿に関連した症状(疼痛・腫脹・腫瘤)について述べるができる。		
	○	○			5. 泌尿器系の検査と治療、手術療法について述べるができる。		
	○	○			6. 尿路・性器の感染症(腎盂腎炎・膀胱炎・尿失禁・腎結石症)について述べるができる。		
テキスト・教材 参考図書	今井 亜矢子:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器』, 医学書院, 2019 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間1・2> 腎不全の症状・治療、腎移植・末梢腎不全治療について			配布資料の事前通読 解剖生理学腎泌尿器 通読		
	2	<時間3・4> 泌尿器系の構造と機能(腎臓・尿管・膀胱・尿道・男性生殖器)			配布資料の事前通読 解剖生理学腎泌尿器 通読		
	3	<時間5・6> 尿の異常と排尿に関連した症状(疼痛・腫脹・腫瘤)			配布資料の事前通読 解剖生理学腎泌尿器 通読		
	4	<時間7・8> 泌尿器系の検査と治療、手術療法について			配布資料の事前通読 解剖生理学腎泌尿器 通読		
	5	<時間9・10> 尿路・性器の感染症(腎盂腎炎・膀胱炎・尿失禁・腎結石症)			配布資料の事前通読 解剖生理学腎泌尿器 通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。 ・藤崎先生は、試験無し						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(中島)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅳ1単位取得には、(病態生理学Ⅳ泌尿器100%+女性生殖器100%+感染症100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅳ(感染症)						
科目名(英)	Pathophysiology IV. Infection						
単位数	1単位	時間数	6時間/30時間	担当者	富山周作 山口裕崇		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	2名とも病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	感染性疾患、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。感染性疾患に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 細菌とウイルスの違い・パンデミックについて述べるができる。	
	○	○				2. 各細菌性疾患について説明できる。	
	○	○				3. 各ウイルス性疾患について説明できる。	
	○	○				4. 結核、薬剤耐性菌について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	岩田 健太郎:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症』, 医学書院, 2019 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1・2>細菌とウイルスの違い・パンデミック			配布資料の事前通読 通読		
	2	<時間:3・4>細菌性疾患、ウイルス性疾患および治療、検査			配布資料の事前通読 通読		
	3	<時間:5・6>結核、薬剤耐性菌			配布資料の事前通読 通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅳ1単位取得には、(病態生理学Ⅳ泌尿器100%+女性生殖器100%+感染症100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	治療論 I (薬理学・漢方治療)						
科目名(英)	Therapeutics I Pharmacology						
単位数	2単位	時間数	45時間	担当者	①梅田勇一 ②田原英一		
実施年度	2020年度	実施時期	通期	担当者実務経験	病院にて①薬剤師・②医師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	医療現場で用いられている薬物療法を受ける人々への看護につなげられるよう、薬物の知識と管理・薬物療法について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				薬物治療における病気・使用目的・ナースの役割が説明できる。	
	○	○				薬の作用のメカニズムが説明できる。	
	○	○				薬物の影響(反復投与による薬効への影響・薬の治療域と作用点・受容体と投与経路)が説明できる。	
	○	○				薬の管理の注意点が説明できる。	
	○	○				感染症治療薬に関する基礎知識が説明できる。	
	○	○				抗アレルギー薬・抗炎症薬の作用と特徴が説明できる。	
	○	○				神経伝達物質と交感神経・副交感神経作用薬の作用が説明できる。	
	○	○				中枢神経系に作用する薬物の作用が説明できる。	
	○	○				心臓・血管系に作用する薬物の作用が説明できる。	
○	○				呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物の作用が説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	古川 裕之:『ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち(2):臨床薬理学』, メディカ出版, 2016 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1・2・3> 薬物治療の目指すもの:薬による病気の治療			配布資料の事前通読		
	2	<時間:4・5・6> 薬物治療の目指すもの:薬の使用目的、薬物療法に重要なナースの役割			配布資料の事前通読		
	3	<時間:7・8・9> 薬理作用:薬の治療域と作用点			配布資料の事前通読		
	4	<時間:10・11・12> 薬理作用:受容体と投与経路、吸収・代謝・排泄			配布資料の事前通読		
	5	<時間:13・14・15> 薬効に影響する因子:反復投与による薬効への影響			配布資料の事前通読		
	6	<時間:16・17・18> 薬物の有害作用:過量のおこる背景			配布資料の事前通読		
	7	<時間:19・20・21> 薬物の有害作用:薬物使用の有益性と有害性			配布資料の事前通読		
	8	<時間:22・23・24> 薬の管理の方法と新薬の誕生			配布資料の事前通読		
	9	<時間:25・26・27> 抗感染症薬:感染症治療薬			配布資料の事前通読		
	10	<時間:28・29・30> 抗感染症薬:合成化学療法剤、抗ウイルス薬			配布資料の事前通読		
	11	<時間:31・32・33> 抗アレルギー薬・抗炎症薬			配布資料の事前通読		
	12	<時間:34・35・36> 神経活動に作用する薬物			配布資料の事前通読		
	13	<時間:37・38・39> 中枢神経系に作用する薬物			配布資料の事前通読		
	14	<時間:40・41・42> 心臓・血管系に作用する薬物			配布資料の事前通読		
15	<時間:43・44・45> 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物			配布資料の事前通読			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・1名の講師の筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。 ・漢方治療に関しては筆記試験無し 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	微生物学						
科目名(英)	Microbiology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	①的野多加志 ②丸谷知美 ③吉田真紀 ④浦園真司 ⑤廣門順子 ⑥内田守次		
実施年度	2020年度	実施時期	通期	担当者実務経験	病院(一)(二)医師(二)看護師(三) ④⑤検査技師・⑥薬剤師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	微生物の基礎知識、感染と発病、感染予防と治療について学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				微生物の種類と特徴をおおまかに説明する	
	○	○				微生物と人間の生活について説明する	
	○	○				細菌の形態と配列・染色性について説明する	
	○	○				物理的・科学的環境、物質代謝について説明する	
	○	○				染色体・プラスミド・変異について説明する	
	○	○				常在細菌叢の功罪・分布について説明する	
	○	○				細菌との違い、真菌の抵抗力について説明する	
	○	○				原虫の特徴と基本構造、原虫の感染について説明する	
	○	○				ウイルスの特徴、基本構造、増殖過程について説明する	
	○	○				ウイルス学的分類、臨床的分類について説明する	
	○	○				感染・感染症・病原性・生体防御機構について説明する	
	○	○				上皮によるバリアー、生理学的防御、常在細菌叢による防御について説明する	
	○	○				食中毒・水系感染について説明する	
○	○				バイオハザードとバイオセーフティー バイオハザード・バイオセーフティーについて説明する		
○	○				細菌学的検査法について説明する		
テキスト・教材 参考図書	南嶋 洋一:『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学』, 医学書院, 2018						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間1・2> 第1章 微生物と微生物学				配布資料の事前通読	
	2	<時間3・4> 第2章 細菌の性質				配布資料の事前通読	
	3	<時間5・6> 第3章 真菌の性質				配布資料の事前通読	
	4	<時間7・8> 第4章 原虫の性質				配布資料の事前通読	
	5	<時間9・10> 第5章 ウイルスの性質				配布資料の事前通読	
	6	<時間11・12> 第6章 感染と感染症:微生物感染の機構				配布資料の事前通読	
	7	<時間13・14> 感染の成立から発症・治癒				配布資料の事前通読	
	8	<時間15・16> 細菌感染の機構、真菌感染の機構				配布資料の事前通読	
	9	<時間17・18> ウイルス感染の機構				配布資料の事前通読	
	10	<時間19・20> 第7章 感染に対する生体防御機構				配布資料の事前通読	
	11	<時間21・22> 第8章 感染源・感染経路からみた感染症				配布資料の事前通読	
	12	<時間23・24> 第9章 感染症の予防				配布資料の事前通読	
	13	<時間25・26> 第10章 感染症の診断				配布資料の事前通読	
	14	<時間27・28> 第11章 感染症の治療				配布資料の事前通読	
15	<時間29・30> 第12章 感染症の現状と対策				配布資料の事前通読		
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(的野)	◎	◎				50%
	筆記試験(丸谷)	◎	◎				50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	公衆衛生学 I						
科目名(英)	Public health I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	小出昭太郎 竹原直道		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	2名とも大学にて講師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	疾病を予防し、人々の健康を保持増進させていくために公衆衛生の動向を理解し、自分自身の健康づくりとともに、家族や職場、地域での総合的な健康支援について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 公衆衛生の意義を説明できる。	
	○	○				2. 公衆衛生の各分野における現状と取り組みを説明できる。 (母子保健、学校保健、成人・老人保健、精神保健福祉、難病対策、地域保健)	
	○	○				3. 公衆衛生の理念を説明できる。	
	○	○				4. 疫学の基礎を説明できる。	
	○	○				5. 健康の指標の現状を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	神馬 征峰:『系統看護学講座<<系統看護学講座 専門基礎分野>>健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生』, 医学書院, 2019年 『国民衛生の動向 2019/2020(第66巻第9号)』, 一般財団法人厚生労働統計協会						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間1・2> 公衆衛生を学ぶ意味			配布資料の事前通読		
	2	<時間3・4> 公衆衛生の定義			配布資料の事前通読		
	3	<時間5・6> 母子保健における活動組織と運営			配布資料の事前通読		
	4	<時間7・8> 成人・老人保健における活動組織と運営－代表疾患別の傾向			配布資料の事前通読		
	5	<時間9・10> 成人・老人保健における活動組織と運営－関連法規			配布資料の事前通読		
	6	<時間11・12> 地域保健			配布資料の事前通読		
	7	<時間13・14> 精神保健福祉			配布資料の事前通読		
	8	<時間15・16> 難病対策			配布資料の事前通読		
	9	<時間17・18> 感染症法に基づく感染症			配布資料の事前通読		
	10	<時間19・20> 疫学の基礎			配布資料の事前通読		
	11	<時間21・22> 健康の指標－人口統計を学ぶ意義			配布資料の事前通読		
	12	<時間23・24> 健康の指標－人口動態統計・生命表・受療状態			配布資料の事前通読		
	13	<時間25・26> 公衆衛生の理念－プライマリヘルスケア			配布資料の事前通読		
	14	<時間27・28> 公衆衛生の理念－ヘルスプロモーション			配布資料の事前通読		
	15	<時間29・30> まとめ 振り返り			配布資料の事前通読		
評価方法	2名の講師にて筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(小出)	◎	◎				50%
	筆記試験(竹原)	◎	◎				50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技術Ⅲ						
科目名(英)	Basic nursing technology Ⅲ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	野中 紀子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	対象把握の技術であるフィジカルアセスメント(バイタルサイン・記録報告含む)について教授する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 対象の健康状態を評価する意義と方法を説明できる。	
	○	○				2. 基本的なフィジカルイグザミネーションを実施でき、正常な身体状況を説明できる。	
	○	○	○	○		3. バイタルサインの測定および記録・報告ができる。	
	○	○				4. 以下の系統別のフィジカルアセスメントの実施・評価ができる。 (呼吸器系・消化器系・循環器系・感覚器系・運動器系・中枢神経系)	
○	○	○	○			5. 看護における記録・報告の意義と方法を説明し、実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	有田 清子:『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ』, 医学書院, 2019 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1・2> 観察とは、目的・方法(系統的、直感的観察法)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	2	<時間:3・4> 観察の視点(身体的・精神的・社会的アセスメント)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	3	<時間:5・6> 観察の手段(問診、視診、触診、聴診、打診、身体計測)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	4	<時間:7・8> 看護におけるフィジカルアセスメント・フィジカルアセスメントに共通する技術			テキスト事前通読、適時課題実施		
	5	<時間:9・10> バイタルサイン(バイタルサインとは、測定方法とアセスメント)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	6	<時間:11・12> バイタルサイン測定の実際(体温・呼吸・脈拍・意識レベル評価)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	7	<時間:13・14> バイタルサイン測定の実際(血圧)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	8	<時間:15・16> フィジカルアセスメントの5つの基本技術(問診、視診、触診、打診、聴診)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	9	<17・18> フィジカルイグザミネーションの実際(感覚器系・運動器系・中枢神経系)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	10	<時間:19・20> フィジカルイグザミネーションの実際((呼吸器系・消化器系・循環器系)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	11	<時間:21・22> フィジカルイグザミネーションの演習・技術評価(循環器・消化器系)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	12	<時間:23・24> フィジカルイグザミネーションの演習・技術評価(呼吸器系)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	13	<時間:25・26> 記録とは(記録の目的・記録の方法・種類)			テキスト事前通読、適時課題実施		
	14	<時間:27・28> 報告とは、報告の実際			テキスト事前通読、適時課題実施		
15	<時間:29・30> 技術評価/国家試験練習問題			テキスト事前通読、適時課題実施			
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 合計100% ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。 ・点数には含まないが、技術については演習で評価する。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(野中)	◎	◎	◎	◎		100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技術Ⅴ						
科目名(英)	Basic nursing technology Ⅴ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	田中美香		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	検査の目的とそれを受ける対象への援助について学ぶ。 薬物療法の目的とそれを受ける対象への援助について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1.検査の目的とそれを受ける対象への援助の方法について説明できる。	
	○	○				2.与薬における法的根拠、知識・技術・態度、薬剤の種類などについて説明できる。	
	○	○				3.さまざまな与薬方法について説明できる。	
	○	○	○	○		4.さまざまな与薬方法(注射法)の基礎的技術が習得できる。	
○	○				5.輸血法、針刺し事故防止策について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・有田 清子:『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ』, 医学書院, 2019 ・有田 清子:『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ』, 医学書院, 2017 ・竹尾 恵子:『看護技術プラクティス』, 学研プラス, 2015 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	＜時間:1・2＞与薬とは、与薬における法的根拠、与薬のための基礎知識				テキスト事前通読、適時課題実施	
	2	＜時間:3・4＞内用薬・外用薬の与薬方法(経口、吸入、点眼、点鼻、経皮、直腸内、作用機序)				テキスト事前通読、適時課題実施	
	3	＜時間:5・6＞注射の基礎知識(注射方法、注射の共通技術①)				テキスト事前通読、適時課題実施	
	4	＜時間:7・8＞注射の基礎知識(注射器の取扱い、注射の共通技術②)				テキスト事前通読、適時課題実施	
	5	＜時間:9・10＞与薬方法(皮下・筋肉・静脈内・点滴注射):グループ学習				テキスト事前通読、適時課題実施	
	6	＜時間:11・12・13・14＞与薬方法(皮下・筋肉・静脈内・点滴注射):グループ演習				テキスト事前通読、適時課題実施	
	7	＜時間:15・16・17・18＞与薬方法(皮下・筋肉・静脈内・点滴注射):シミュレーション 練習				テキスト事前通読、適時課題実施	
	8	＜時間:19・20・21・22＞与薬方法(皮下・筋肉・静脈内・点滴注射):シミュレーション 実践				テキスト事前通読、適時課題実施	
	9	＜時間:23・24＞輸液方法(輸液ポンプ、シリンジポンプ、三方活栓)、輸血				テキスト事前通読、適時課題実施	
	10	＜時間:25・26＞検体検査における看護師の役割				テキスト事前通読、適時課題実施	
	11	＜時間:27・28＞生体検査における看護師の役割				テキスト事前通読、適時課題実施	
	12	＜時間:29・30＞生体情報モニタリングにおける看護師の役割、検査における看護師の役割				テキスト事前通読、適時課題実施	
	13						
	14						
15							
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 100点 ・筆記試験 60点以上を合格とし、59点以下は再試験対象となる。 ・点数には含めないが、技術については演習で評価する。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技VI					
科目名(英)	Basic Nursing Technology VI					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	柊澤芳江	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年					
授業概要	看護を展開するプロセスに必要な知識を習得し、問題の明確化、優先度の判断、計画、対象の反応の確認や評価、方法などについて理解できるようにする。さらに対象を多面的に捉え、フィジカルアセスメントや安全・安楽な看護を身につける機会とする。					
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
	○	○			目標	
	○	○			看護過程の5つの構成要素の概要について説明することができる。	
	○	○			問題解決過程について事例をもとに説明することができる。	
	○	○			アセスメントについて以下の内容を説明することができる。	
	○	○			看護問題の見極め(看護診断の進め方)について以下の視点で説明することができる。	
	○	○			期待される成果の明確化について以下の視点で説明することができる。	
	○	○			実施について以下の視点で説明することができる。	
	○	○			ヘンダーソンが考える看護について以下の視点で説明することができる。	
○	○			看護記録について以下の視点で説明することができる。		
○	○			ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程について紙上事例を基に以下の視点で記述することができる。		
テキスト・教材 参考図書	基礎看護技術 I (医学書院) ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 看護診断ハンドブック					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	＜時間1・2＞看護過程の5つの構成要素			配布資料の事前通読	
	2	＜時間3・4＞看護過程を展開する際に基盤となる考え方			配布資料の事前通読	
	3	＜時間5・6＞アセスメント(情報収集と分析)			配布資料の事前通読	
	4	＜時間7・8＞看護問題の明確化(看護診断)			配布資料の事前通読	
	5	＜時間9・10＞看護計画			配布資料の事前通読	
	6	＜時間11・12＞実施、評価			配布資料の事前通読	
	7	＜時間13・14＞看護記録とは、看護記録の構成			配布資料の事前通読	
	8	＜時間15・16＞ヘンダーソンが考える看護			配布資料の事前通読	
	9	＜時間17・18＞ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際 －紙上事例:情報収集			配布資料の事前通読	
	10	＜時間19・20＞ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際 －紙上事例:アセスメント(基本的欲求を変容させる病理的状態)			配布資料の事前通読	
	11	＜時間21・22＞ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際 －紙上事例:アセスメント(基本的欲求)			配布資料の事前通読	
	12	＜時間23・24＞ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際 －紙上事例:アセスメント(基本的欲求に影響を及ぼす常在条件)			配布資料の事前通読	
	13	＜時間25・26＞ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際 －紙上事例:問題の明確化			配布資料の事前通読	
	14	＜時間27・28＞ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際 －紙上事例:看護問題			配布資料の事前通読	
15	＜時間29・30＞ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際 －紙上事例:看護計画			配布資料の事前通読		
評価方法	評価:提出レポート内容(80%)・態度面(20%) 計100% 成績評価基準は、A(91点以上)・B(81点以上)・C(71点以上)・D(61点以上)・E(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	レポート評価	◎	◎			
評価割合						100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	臨床看護技術						
科目名(英)	Clinical nursing technology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	山本勇也 樺澤芳江 野中紀子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	3名とも病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	健康障害をもつ対象の理解とその状態に応じた看護について演習を通して教授する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 健康障害をもつ対象の理解について述べるができる。	
	○	○				2. 主要症状のある患者の看護について述べるができる。	
	○	○				3. 主要症状、治療処置別の看護について述べるができる。	
			○	○		4. 患者の状態に応じた基礎看護技術を実施することができる。	
○	○				5. 基礎看護技術と臨床看護技術の違いについて述べるができる。		
テキスト・教材 参考図書	香春 知永:『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論』, 医学書院, 2016						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間1・2> 臨床看護技術の種類				配布資料の事前通読	
	2	<時間3・4> 看護実践能力向上に繋がる学び -形式知アプローチと実践知アプローチ				配布資料の事前通読	
	3	<時間5・6> 看護実践能力向上に繋がる学び -臨床技能習得の段階に関する理論				配布資料の事前通読	
	4	<時間7・8> 看護実践能力向上に繋がる学び -看護実践におけるリフレクション				配布資料の事前通読	
	5	<時間9・10> 看護実践能力向上に繋がる学び -リフレクションの方法とスキル				配布資料の事前通読	
	6	<時間11・12> 看護技術の基盤-医療安全、患者及び家族への説明と助言				配布資料の事前通読	
	7	<時間13・14> 看護技術の基盤-的確な看護判断、適切な看護技術の提供				配布資料の事前通読	
	8	<時間15・16> 健康障害、主要症状がある患者の理解				配布資料の事前通読	
	9	<時間17・18> 患者に必要な看護技術の種類と計画				配布資料の事前通読	
	10	<時間19・20> 看護技術実施の具体的計画				配布資料の事前通読	
	11	<時間21・22> SP患者への看護実践-体位変換、ベッドメイキング				配布資料の事前通読	
	12	<時間23・24> SP患者への看護実践-移乗、清拭				配布資料の事前通読	
	13	<時間25・26> SP患者への看護実践-洗髪				配布資料の事前通読	
	14	<時間27・28> 看護実践の振り返り				配布資料の事前通読	
15	<時間29・30> まとめ-基礎看護技術と臨床看護技術の違い				配布資料の事前通読		
評価方法	・筆記試験20%と技術試験80%の合計100%にて評価を行う。 ・技術試験に関しては形成評価とする。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				20%
	技術試験			◎	◎		80%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護学実習 I						
科目名(英)	Basic Nursing Practice I						
単位数	1単位	時間数	45時間	担当者	臨地指導者・野中 紀子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	全て医療施設にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	看護の対象を理解し、看護活動の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1.患者の療養環境について説明できる。	
	○	○				2.患者とのコミュニケーションを通し、患者のニーズについて説明できる。	
	○	○				3.人間関係が成立するまでのコミュニケーションの重要性について説明できる。	
	○	○	○			4.対象の全体像を知るためにヘンダーソン理論に基づき、系統的に情報収集ができる。	
	○	○	○	○		5.原理原則に基づいて、日常生活活動の援助技術を実施できる。	
				○			6.看護師倫理に則して実習を行うことができる。
テキスト・教材 参考図書	基礎看護学の講義資料 その他、基礎看護に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	基礎看護学実習 I ①	入院による生活の変化(患者の状況)			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		入院による生活の変化(病室環境)			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		患者の生理的ニーズを把握			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		対象とのコミュニケーション(言語的)			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		対象とのコミュニケーション(非言語的)			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		コミュニケーションの構成要素			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
	基礎看護学実習 I ②	基本的看護の構成要素に基づいた情報収集の実施			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		基本的欲求に影響を及ぼす常在条件に基づいた情報収集の実施			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		基本的欲求を変容させる病理的状态に基づいた情報収集の実施			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		情報源の活用(患者・家族・カルテ・患者の同室者・医療スタッフ)			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		原理原則に則った上での看護技術(環境調整)			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		原理原則に則った上での看護技術(症状・生体機能管理)			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		原理原則に則った上での看護技術(食事・排泄援助)			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
原理原則に則った上での看護技術(活動・休息援助)			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り				
原理原則に則った上での看護技術(清潔・衣生活援助)			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り				
環境	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学概論						
科目名(英)	Introduction to Adult Nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	①草本君子 ②越智美紀 ③山本勇也 ④角美緒		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当実務経験	病院にて①②保健師・③④看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	成人期にある対象を統合的に理解し、健康の維持増進・疾病の予防・健康レベルの回復に関わる看護について学べる内容を教授する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 成人のライフステージにおける身体的、心理社会的特徴について説明できる。	
	○	○				2. ライフスタイルがもたらす健康障害について説明できる。	
	○	○				3. 成人の能力や生活背景を踏まえた援助方法について説明できる。	
	○	○				4. 成人の健康障害の進行の性質に対応した看護について説明できる。	
	○	○				5. 成人の健康障害のレベルに対応した看護について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	小松 浩子:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論』, 医学書院, 2018 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<時間1・2>成人の特徴				配布資料の事前通読	
	2	<時間3・4>成人に特有な健康問題の特徴				配布資料の事前通読	
	3	<時間5・6>成人の特性や能力に応じたアプローチ				配布資料の事前通読	
	4	<時間7・8>ヘルスプロモーションと看護				配布資料の事前通読	
	5	<時間9・10>健康をおびやかす要因と看護				配布資料の事前通読	
	6	<時間11・12>健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護				配布資料の事前通読	
	7	<時間13・14>急性期にある人の特徴				配布資料の事前通読	
	8	<時間15・16>急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護－危機にある人々への支援				配布資料の事前通読	
	9	<時間17・18>急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護－合併症の予防				配布資料の事前通読	
	10	<時間19・20>急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護－回復を促進する看護				配布資料の事前通読	
	11	<時間21・22>急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護－家族の看護				配布資料の事前通読	
	12	<時間23・24>慢性期にある人の特徴				配布資料の事前通読	
	13	<時間25・26>慢性的な経過をたどる健康障害への看護				配布資料の事前通読	
	14	<時間27・28>障害への適応と社会復帰への看護				配布資料の事前通読	
	15	<時間29・30>終末期の看護				配布資料の事前通読	
評価方法	・筆記試験100%にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(山本・角)	◎	◎				60%
	筆記試験(草本・越智)	◎	◎				40%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学方法 I					
科目名(英)	Adult nursing method I digestive system, metabolism, GW					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	西島明日香	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年					
授業概要	成人が何らかの慢性的な病をもったときに、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活に折り合いをつけて、自らの力で生活を拡大し生きていくかをテーマとし、看護方法、事例を用いた看護の実際、看護過程を通してセルフマネジメントを目指す看護を学ぶ。特に患者教育に重点をおき、その人らしい生活が営めるように援助する看護実践能力を養うことを目指した。具体的には、「栄養・代謝障害」、「排泄機能障害」のある患者の看護を学ぶ。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				代謝障害のある患者の特徴を身体的側面・心理・社会的側面からとらえ、それぞれに対する看護援助について説明できる。
	○	○				慢性疾患看護に特徴的な役割のひとつである患者・家族への教育的支援についてふれ、そのなかでヘルスプロモーションの考え方について説明できる。
	○	○				栄養障害を引き起こす疾患を理解し、内科的・外科的治療を受ける患者の看護について説明できる。
	○	○				消化器症状に対する看護について説明できる。
	○	○				排泄物(便・尿)が生成され排出される機構を理解し、それが妨げられた状態の症状や治療・看護について説明できる。
テキスト・教材 参考図書	南川 雅子:『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器・内分泌』, 医学書院, 2019 小松 浩子:『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学概論』, 医学書院, 2018 講師配布資料					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	<時間:1・2>成人看護学の位置づけの確認				配布資料の事前通読
	2	<時間:3・4>既習知識(解剖・病態)を基盤に看護を追求する方法―肝硬変からの食道静脈瘤の事例を通して				配布資料の事前通読
	3	<時間:5・6>糖尿病患者の看護について―疾患の概要				配布資料の事前通読
	4	<時間:7・8>糖尿病患者の看護について―一般的な看護の考え方				配布資料の事前通読
	5	<時間:9・10>食道癌 病態の経過に応じた看護-入院時・検査前中後・治療前中後・退院前				配布資料の事前通読
	6	<時間:11・12>胃癌 病態の経過に応じた看護-入院時・検査前中後・治療前中後・退院前				配布資料の事前通読
	7	<時間:13・14>直腸 病態の経過に応じた看護-入院時・検査前中後・治療前中後・退院前				配布資料の事前通読
	8	<時間:15・16>肝臓 病態の経過に応じた看護-入院時・検査前中後・治療前中後・退院前				配布資料の事前通読
	9	<時間:17・18>胆石症 病態の経過に応じた看護-入院時・検査前中後・治療前中後・退院前				配布資料の事前通読
	10	<時間:19>「2型糖尿病患者」の看護過程の展開―情報収集				配布資料の事前通読
	11	<時間:20・21>「2型糖尿病患者」の看護過程の展開―アセスメント(病態像)				配布資料の事前通読
	12	<時間:22~24>「2型糖尿病患者」の看護過程の展開―アセスメント(人間像・生活像)				配布資料の事前通読
	13	<時間:25・26>「2型糖尿病患者」の看護過程の展開―問題リスト				配布資料の事前通読
	14	<時間:27・28>「2型糖尿病患者」の看護過程の展開―看護計画				配布資料の事前通読
15	<時間:29・30>摂食・嚥下障害				配布資料の事前通読	
評価方法	・グループワークにて作成した看護過程のレポート(30% *グループワーク中の態度含)、講義内容の筆記試験(70%)、合計100%にて評価する。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	レポート	◎	◎		◎	
筆記試験	◎	◎				
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	老年看護学概論						
科目名(英)	Introduction to Gerontological nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	①井上久美子 ②尾崎恵美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて①ケアマネジャー・②看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	より広い観点から高齢化の現状を捉えるため、人口統計的な知識・社会構造的な知識から、高齢社会の現状と課題、ヘルスケアシステムなどについて学ぶ。 また、老年看護を学ぶ基礎として、老年期の定義、そして高齢者の身体的・精神的・社会的特徴と生活への影響などについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 高齢社会の現状と課題について説明できる。	
	○	○				2. 高齢社会における社会の仕組みについて説明できる。	
	○	○				3. 老年期について定義、発達課題などについて説明できる。	
	○	○				4. 高齢者の健康の特徴について説明できる。	
	○	○				5. 加齢に伴う高齢者の身体的・精神的・社会的機能の変化について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・北川 公子:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』, 医学書院, 2018 ・配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間1・2> 高齢社会の現状と課題(高齢化率など統計的背景)			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	2	<時間3・4> 地域包括ケアシステムとは			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	3	<時間5・6> 地域包括支援センターの役割			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	4	<時間7・8> 高齢者の介護保険制度			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	5	<時間9・10> 高齢者の介護保険サービス			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	6	<時間11・12> 高齢者虐待の防止(高齢者虐待防止法)			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	7	<時間13・14> 高齢者の安全確保と身体拘束(例外3原則)			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	8	<時間15・16> 高齢者の権利擁護(成年後見制度、ノーマライゼーション)			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	9	<時間17・18> 高齢者体験			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	10	<時間19・20> 未知なる老いのイメージ、加齢と老化、老年期とは			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	11	<時間21・22> 身体的・心理的・社会的機能の変化、高齢者の疾病の特徴			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	12	<時間23・24> 加齢に伴う身体機能の変化:循環器系・呼吸器系			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	13	<時間25・26> 加齢に伴う身体機能の変化:外皮系・視覚・聴覚・味覚・嗅覚			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	14	<時間27・28> 加齢に伴う身体機能の変化:運動器系・消化器系			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
	15	<時間29・30> 加齢に伴う身体機能の変化:泌尿生殖器系・ホルモン分泌			テキスト事前通読 適宜課題提示あり		
評価方法	・2名の講師による講義内容を 筆記試験 各50点 合計100点にて評価を行う。 ・筆記試験 60点以上を合格とし、59点以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(井上)	◎	◎				50%
	筆記試験(尾崎)	◎	◎				50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	小児看護学概論					
科目名(英)	Introduction to pediatric nursing					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小金丸翔子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年					
授業概要	小児看護学の理念や目的、新生児・幼児・学童・思春期の成長発達の特徴および看護の役割、小児を取り巻く家族や社会の動向を学び、小児や家族のアセスメントの基盤としていく。また、小児の発達の理解に必要な理論、小児に関連する保健医療福祉の変遷と制度を学ぶことで、歴史的背景や現代の動向に対する理解へつなげる。					
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				1. 子どもと家族をより広い視点からとらえて、小児看護の果たす役割について説明できる。
	○	○				2. 小児看護の対象はすべての健康レベルの子どもであることを説明できる。
	○	○				3. 小児の成長発達、小児各期の発達の特徴について説明できる。
	○	○				4. 小児をめぐる法律や政策について説明できる。
テキスト・教材 参考図書	奈良間美保 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／臨床看護総論』, 医学書院, 2019年					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	<時間1・2>小児看護の特徴と理念			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	2	<時間3・4>小児看護の課題と倫理			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	3	<時間5・6>小児各期の成長発達の原則と発達課題			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	4	<時間7・8>成長発達に影響する因子・発達の評価			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	5	<時間9・10>家族の特徴とアセスメント			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	6	<時間11・12>小児のアセスメントに必要な技術			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	7	<時間13・14>小児の身体的アセスメント			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	8	<時間15・16>新生児期の形態的・機能的・精神的特徴			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	9	<時間17・18>乳児期の形態的・機能的・精神的特徴			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	10	<時間19・20>幼児期の形態的・機能的・精神的特徴			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	11	<時間21・22>学童期の形態的・機能的・精神的特徴			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	12	<時間23・24>思春期の形態的・機能的・精神的特徴			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	13	<時間25・26>小児と家族を取り巻く社会			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
	14	<時間27・28>小児を保護する法律			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり	
15	<時間29・30>小児の権利擁護			テキスト・配布資料の事前通読、適宜課題提示あり		
評価方法	筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験	◎	◎			
評価割合						100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	小児看護学方法 I					
科目名(英)	Pediatric nursing method I					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	岡松由紀・大矢崇志・田中祥一朗・屋宮清仁・齊木玲央・嘉村拓朗・津村直弥・石本隆浩	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて医師・①看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科・1年					
授業概要	援助に必要な知識の基盤として、小児期の代表的疾患、症状の特徴、身体的・心理的・社会的発達に影響する因子を学ぶ。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				1.小児の成長発達過程における基本的な生理を理解し、小児期における疾患の特徴と診断・治療について説明できる。
テキスト・教材 参考図書	奈良間美保:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論/臨床看護総論』, 医学書院, 2019年 奈良間美保:『統計看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 臨床看護各論』, 医学書院, 2019年					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	<時間:1・2>総論			テキスト・配布資料の事前通読	
	2	<時間:3・4>先天異常・新生児の疾患			テキスト・配布資料の事前通読	
	3	<時間:5>内分泌・代謝疾患			テキスト・配布資料の事前通読	
	4	<時間:6・7>免疫疾患・アレルギー疾患			テキスト・配布資料の事前通読	
	5	<時間:8~10>感染症			テキスト・配布資料の事前通読	
	6	<時間:11・12>呼吸器疾患・循環器疾患			テキスト・配布資料の事前通読	
	7	<時間:13・14>消化器疾患			テキスト・配布資料の事前通読	
	8	<時間:15>腎・泌尿器疾患			テキスト・配布資料の事前通読	
	9	<時間:16・17>神経疾患			テキスト・配布資料の事前通読	
	10	<時間:18・19>血液疾患・感覚器疾患			テキスト・配布資料の事前通読	
	11	<時間:20・21>精神疾患			テキスト・配布資料の事前通読	
	12	<時間:22・23>虐待・事故			テキスト・配布資料の事前通読	
	13	<時間:25・26>小児外科疾患－鼠径ヘルニア等			テキスト・配布資料の事前通読	
	14	<時間:27・28>小児外科疾患－虫垂炎等			テキスト・配布資料の事前通読	
	15	<時間:29・30>鎖肛に関する看護－グループワーク演習			テキスト・配布資料の事前通読	
評価方法	筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験	◎	◎			
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	母性看護学概論						
科目名(英)	Introduction of maternal nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	浅見詩織		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて助産師として勤務		
対象学科・学年	看護科・1年						
授業概要	母性看護学概論では、母性看護の変遷と動向・意義に加え、人間の性と生殖、母性看護の特性、女性のライフステージについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: :△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 女性のライフサイクルから見た看護の対象を説明することができる。	
	○	○				2. リプロダクティブヘルスライツの考え方を説明することができる。	
	○	○				3. 現代社会における問題を知り、母性看護の意義と役割を述べるすることができる。	
	○	○				4. ライフサイクル各期に起こりやすい生殖機能の障害を理解し、必要な看護を考えることができる。	
	○	○				5. 高度生殖医療による生命倫理の現状を知り、看護職者としての倫理観について考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	森 恵美『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論』, 医学書院, 2016 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	<時間:1~4>母性看護学の基盤となる概念			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	2	<時間:5~14>母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	3	<時間:15~17>母性対象の理解			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	4	<時間:18>母性看護に必要な看護技術			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	5	<時間:19~27>女性のライフステージ各期における看護・リプロダクティブヘルスケア			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	6	<時間:28~30>リプロダクティブヘルスケア			テキスト事前通読、適宜課題実施		
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	・講義内容を 筆記試験 にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						